

## 学会誌創刊の辞

日本分類学会の設立から28年、ここに和文誌「データ分析の理論と応用」を創刊することになった。誠に慶ばしいかぎりである。ここにいたるまでのジャーナル検討委員会を始めとする関係者の並々ならぬ努力に感謝したい。

日本分類学会が設立されたのは1983年6月である。当初は「分類の理論と応用に関する研究会」として発足したが、1991年に「日本分類学会」と名称を改め今日に至っている。2005年2月に応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、そして日本分類学会の6学会から成る統計関連学会連合が発足した。その一員として関連学会との連携も図っている。

「分類の理論と応用に関する研究会」設立の当時は、国際分類学会連合(International Federation of Classification Societies: IFCS, 1985年設立)の創立の機運が盛り上がり、この連合創立に参加することを視野において、本学会が誕生した。したがって、本学会の活動は国内活動のみならず国際的な連携活動も含まれている。1996年には日本分類学会が主催で神戸においてIFCS1996を開催した。古くは、1987年、1991年の日仏科学協力セミナー、近年では2005年、2006年、2010年の日独分類会議等、日本分類学会の会員による各国研究者との交流が盛んに行われており、さらには、ドイツ分類学会、イタリア分類学会とのジャーナル(Advances in Data Analysis and Classification: ADAC)の刊行あるいは研究集会等が実施・計画されている。

「分類」はあらゆる科学における基本的思考操作である。「分類」は科学の本質に直結する問題であり、基礎的な考察からより具体的な適用まで、きわめて広範囲にわたるものである。それゆえ、分類の研究にとって基礎理論と応用とが一体になって進む研究体制が必要である。こういう理念のもとに学際的な交流を図る場として本学会が誕生した。ここでは「分類」は、taxonomy, classificationといった表現で知られる狭い意味の分類ではなく、あらゆる科学の基礎であるという広い意味の「分類」である。

この設立の趣旨に沿ったものとしてここに「データ分析の理論と応用」が発刊されることとなった。

あえて「分類」ということばをはずしたのは、前述の趣旨に沿ったものであり、データ科学の広範な分野の学際的な研究交流の場を提供するという趣旨である。したがって、理論や手法のみならず理論や手法の応用、データの分析、分析事例の提供なども対象とした論文誌を目指している。学際的な方向を志向する本学会の趣旨からは広い分野での有益な論文を集めることが求められているとの認識である。

学会誌の存続は読まれることが肝要であり、そのためには読者にとって価値のある情報が提供できることが必要である。かくして、会員各位の優れた研究成果の論文によって本誌が飾られることが望まれる次第である。

2011年夏

日本分類学会  
会長 馬場康夫